

2013年7月25日

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下 勝之
先天異常担当常務理事 平原 史樹

手足口病の流行に関して

現在全国で手足口病が例年の10倍の流行と報道されており、妊娠中の方の罹患の事例相談もみられます。日本産婦人科医会として下記の情報提供をいたしますので、参考にしてください。

手足口病 (Hand, foot and mouth disease)は、エンテロウイルス71あるいはコクサッキーA16を主たる原因ウイルスとした急性ウイルス感染症です。主に子どもが罹患しますが、口腔粘膜、四肢における水疱性発疹、発熱等を主症状として発症します。経口、飛沫、接触等で感染が伝播され、潜伏期は3~4日、主症状の消褪後も3~4週ウイルスが排出されることがあるとされています。

妊婦に感染することはまれですが、罹患した場合についての詳細かつ広範な症例の分析報告はありません。しかしながら、胎児異常との明らかな因果関係を証明した報告はありません。まれに流死産症例、胎児水腫などの報告はありますが、ほとんどの罹患例では対症療法を行い、慎重な経過観察等で対応することで済まされるものと考えられています。

なお、手足口病の詳しい情報については、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>) を参照して下さい。